

中国総合



LED集魚灯を搭載するなど省エネに配慮した山口型モデル漁船

省エネ漁船完成 LED集魚灯 V字形船底

山口県「年50万円節約」

燃油高騰に対応した集魚灯十二枚を併用機器や技術を採用すること、日本海の一本釣り漁業のモデルとなる漁船を山口県が完成させた。今月中旬から操業を始めており、県は約一年間かけて省エネ効果を検証する。

「山口型モデル漁船」(四・八シ)で、中古船を約二百万円かけて改造した。最大の特徴は、県が一昨年、昨年の実証実験で効果を確認した発光ダイオード(LED)集魚灯。LEDのみだと漁獲量がやや落ちることから、従来の集魚灯とLED

燃油高騰に対応した集魚灯十二枚を併用機器や技術を採用すること、日本海の一本釣り漁業のモデルとなる漁船を山口県が完成させた。今月中旬から操業を始めており、県は約一年間かけて省エネ効果を検証する。

船底の形状もV字形に改造し航行時の水の抵抗を軽減。魚群を探すソナーを取り付け、

魚を探すのに必要な燃油代を減らすなどの技術を搭載している。

この船でイカ釣りの操業をする漁業松岡健史さん(30)は長門市油谷は「二日当たる」と期待を込める。

県漁協川尻支店の田浦尚美運営委員長(74)は「ここ数年で燃油価格は一気に上昇しており、今後の検証結果にも期待したい」と話している。(石井雄一)